



北川川除割当絵図 江戸時代末期 京都大学総合博物館蔵



北川

関連資料がなく絵図作成の経緯は明らかにできないが、遠敷郡を貫流して小浜城下に注ぐ北川の川除（おほり）の建設や川濠（かわぼり）などの管理を流域の各村々に割当てた絵図と考えられる。割当の間数に加え「両堤トモ」「水源迄両道路トモ」などの注記があり、担当する村に向かって朱線が引かれている。中流部で複数村の共同（「立合」）とされる場合や下流部で二村に交互に割当てられている場合があり、利害の対立や負担の多少などによって村間の調整が必要であったことがうかがわれる（『福井県史』資料編16上参照）